

郷土博物館だより [つはく]

津博

TSUJIBAKU

2020.5 No.104

トピック

・郷土博物館の再オープン

研究余録

・綱国死後の宮川御殿 東 万里子

お知らせ

・人事異動
・令和2年度の行事予定
・新刊のお知らせ



津山郷土博物館

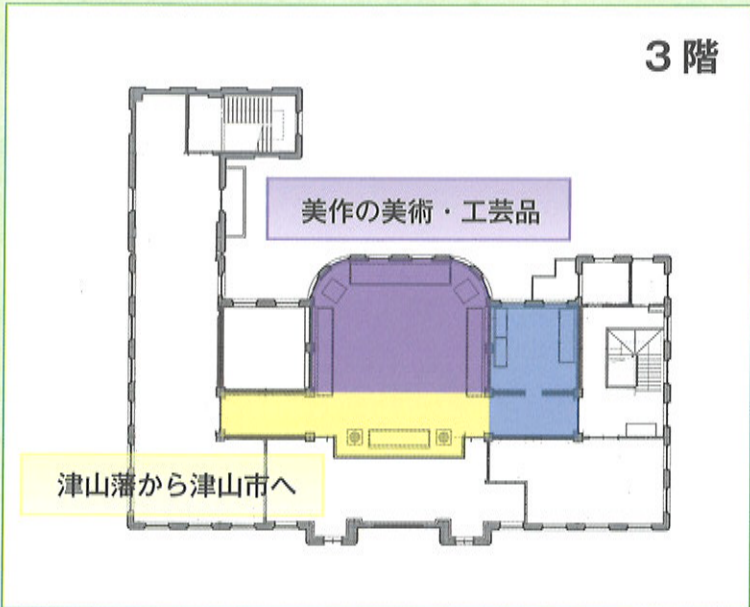
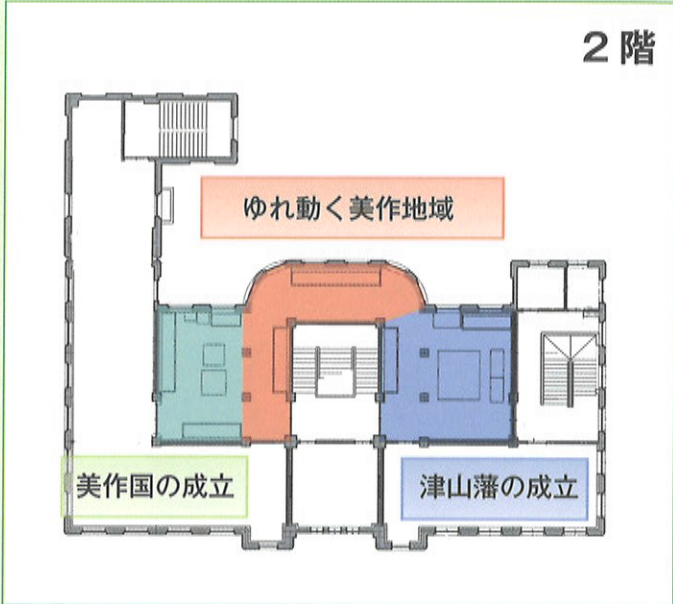
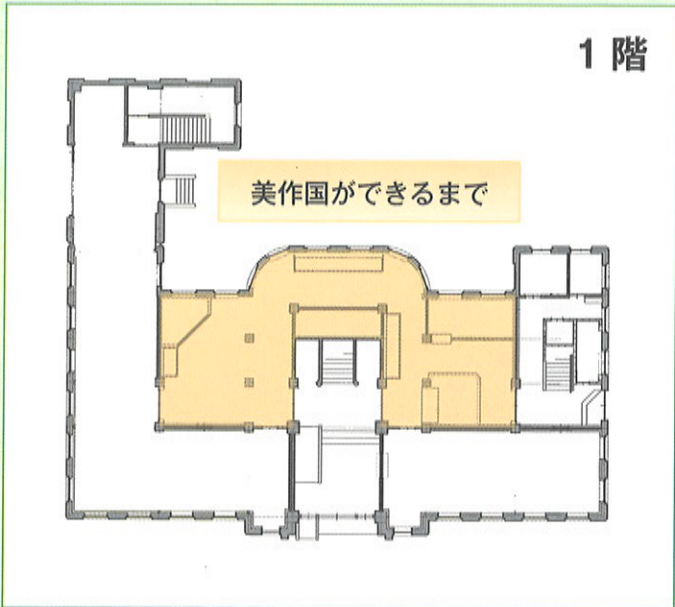
Tsuyama City Museum

(表紙写真 桜の津山城)

津山郷土博物館は再オープンしました！

耐震改修工事のため平成30年1月より長期に渡り休館しておりましたが令和2年4月1日再オープンしました。新たな展示物を含め博物館展示の見所の一部をご紹介します。みなさま、ぜひご来館ください。

各階の展示テーマ



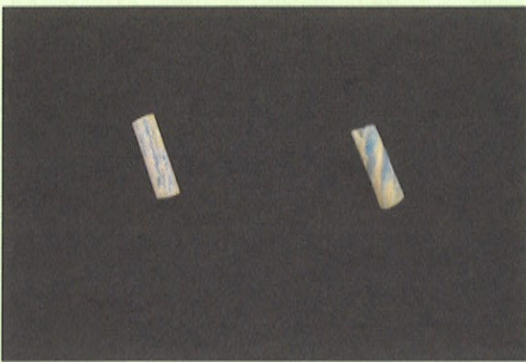
つぎよのすけ
博物館キャラクター「津郷之介」



博物館キャラクター「バレ夫」

みどころ解説

美作国ができるまで
津山の弥生文化
有本遺跡出土のガラス管玉



有本遺跡は、弥生時代後期の墳墓群です。約140基のお墓が検出され、その内の1基から青白色をしたガラス管玉17点が出土しました。

ガラス管玉の着色には、古代中国で生産された青色の顔料「漢青(ハン・ブルー)」が使用されています。「漢青」は、人工の顔料で、中国では戦国時代から後漢時代(紀元前5世紀～紀元後3世紀)にかけて生産され、秦の始皇帝陵の兵馬俑の彩色にも使用されていました。有本遺跡のガラス管玉は、科学的な分析によって「漢青」が国内で初めて確認された、大変貴重な例といえます。

美作国ができるまで
古墳の時代
的場古墳出土遺物ほか



古墳時代にも朝鮮半島から伝わった技術により、生活に大きな変化がありました。ひとつは土器についてです。煮炊きにする土器は弥生土器と同様野焼きで作られる「土師器」が使用されますが、5世紀前半頃朝鮮半島から伝わった「須恵器」は窯を用いて千度以上の高温で焼かれた青灰色の硬い焼き物で、ロクロを用いて形を作るため、大量生産ができるという特徴を持っていました。須恵器は火に弱いため、貯蔵用や盛り付け用の器として使われました。

もう1つはカマドです。古墳時代の住居は基本的に四角形であり、古墳時代中期になると、その1辺にカマドが作られるようになります。居間と共同だった調理場所が独立し、台所ができました。またカマドにかけて蒸すための調理器具である甑こしきが伝わり、料理の幅も広がったと考えられます。

美作国の成立

古代国家の形成と仏教の受容

久米廃寺出土の仏像（岡山県指定重要文化財）



久米廃寺は、7世紀後半に創建された寺院ですが、火災にあい、平安時代の前半には廃寺となったと考えられています。

当時の郡衙の役人（郡司）には地方豪族が任命されることが多く、彼らは権威の象徴として寺院を造営し、民衆に誇示しました。久米廃寺の建立にも、こうした背景がうかがわれ、初期仏教文化の地方における受容の姿を知るうえで、この久米廃寺は貴重な遺跡といえます。

主な出土品として、仏像（塑像仏・埴仏）・青銅製相輪、蓮華文軒丸瓦その他多数があります。中でも仏像（塑像物・埴仏）は県内の古代寺院では出土例がなく、岡山県内の古代仏教を考えるうえで貴重な資料です。

ゆれ動く美作地域

中世の暮らし

観音堂遺跡出土の備前焼の壺と龍泉窯碗（津山市指定重要文化財）



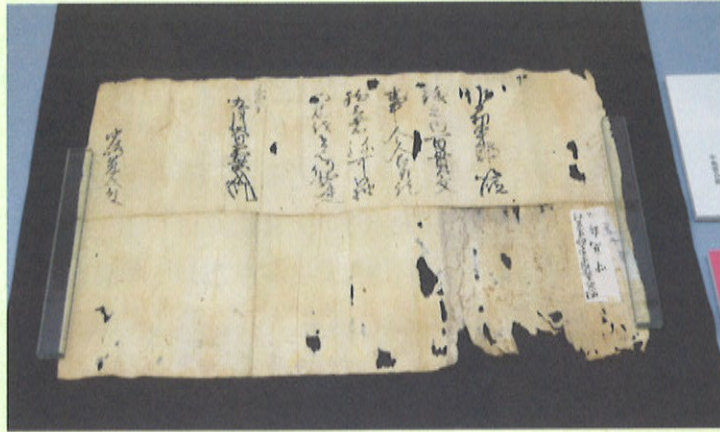
観音堂遺跡は現在の津山市勝北支所前の国道 53 号線の拡幅工事にとまない、昭和 57 年に発掘調査された中世墓地です。

この遺跡から出土した備前焼の壺は、形態的特徴から 14 世紀前半と考えられています。青磁碗は中国の浙江省龍泉窯系のものと考えられ、南宋前半（12 世紀後半）に位置づけられるものです。

また、この地には、昭和のはじめに掘り出され立て直された二基の宝篋印塔があります。これら是一对の供養塔と考えられており、東側の塔には「康永二年」（1343）と刻まれており、岡山県の重要文化財に指定されています。

これらの出土遺物などから、奈良・平安時代ころから鎌倉時代・南北朝時代を通じて、この遺跡周辺には、中央官庁の出先として重要な役割を果たした人々が住んでいたことがうかがわれます。

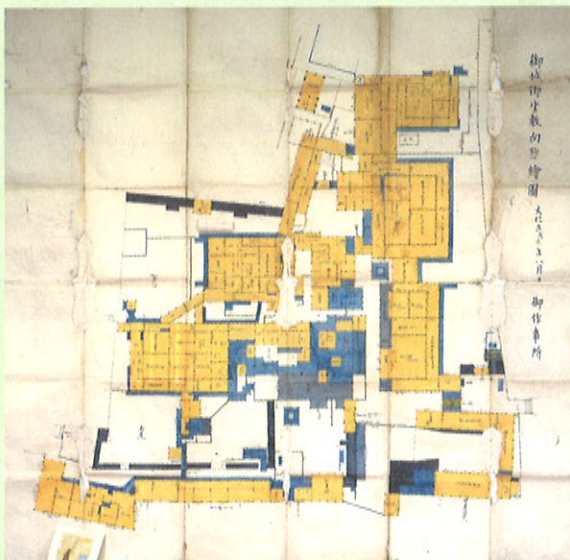
ゆれ動く美作地域
戦国の争乱
浦上宗景書状



この書状は、江戸時代、現在の津山市東一宮で大庄屋を勤めていた中島氏に伝わったものです。中島氏は戦国時代は浦上氏に仕え、浦上氏が没落した後は宇喜多氏に仕えました。秀吉の朝鮮出兵の際には従軍し、戦功を立てたと伝えられています。

書状には、「作州東部の段銭の内から百貫文を与えるので忠義を尽くすように」と記されています。この天正2年は宇喜多直家が浦上宗景と断交し、争うことになった年といわれています。直家との戦のため、宗景が自分に味方をする領主たちに出された書状の中の1つと考えられます。

津山藩の成立
津山城と城下町
御城御座敷向惣絵図



津山城本丸御殿の絵図です。

本丸御殿はいくつもの建物で構成されており、公的な儀式が行われる皇帝之間などの広間、町奉行役所などの役所、藩主が寝起きする部屋や台所などがありました。

文化6年（1809）に本丸御殿は焼失し、文化7年に再建されました。文化5年と記載のあるこの絵図は、焼失前の本丸御殿の様子をよく伝えていています。

津山藩から津山市へ
近代の文化と人物
西東三鬼硯



代表作に「水枕がばりと寒い海がある」等があり俳句の鬼才といわれた俳人西東三鬼（現在の津山市南新座出身 1900年～1962年）ですが、遺品等、西東三鬼関係の資料について当館ではいくつか所蔵をしています。

この写真の硯も西東三鬼が愛用していた遺品の一つで、硯の裏側を見てみると「一等賞津山教育共進会」と彫られてあります。この硯は小学校の時の初恋の思い出の品で、相手は小学校2年生の時の担任の先生でした。

その当時19歳位でぽっちゃりとした先生で、三鬼は先生の授業の中で「書き方」の授業が一番好きだったということです。この硯はその当時に共進会に出品した「書き方」で一等賞をとった時の賞品なのですが、実はその作品は担任の先生の字を「すきうつし」したものであったと暴露しています。この随筆を書いた当時はすでに50歳を超えていましたが、三鬼は幼い日の初恋の思い出の品をずっと手元に置いて使っていたようです。

美作の美術・工芸

江戸一目図屏風 岡山県指定重要文化財
(通常は複製展示)



文化6年(1809)、江戸の全景を詳細に描いた景観図で、隅田川東岸の上空から西方の地上を見下ろした鳥瞰図です。

画面中央に江戸城、左に江戸湾、下に隅田川を配置。江戸城の周囲には大名屋敷が並び、外堀の外には入り組んだ街路や蛇行する用水路に沿って、民家や社寺がびっしりと描かれています。

当時の江戸は人口百万を超える世界でも指折りの大都市でした。本図は、西洋画の技法を駆使しながら、19世紀初頭の江戸の繁栄を描いた肉筆画として、近世景観図の傑作と評価されています。

※展示物は予告なしに変更する場合がございますので、ご了承ください

綱国死後の宮川御殿

東 万里子

宮川御殿とは、津山城の北、宮川の西岸にあった屋敷で、松平綱国（更山）が住んでいました。松平綱国は津山藩松平家の初代藩主宣富の義兄にあたる人物で、元禄十一年（一六九八）津山に来て、城内の森長俊邸跡へ入ります（尾島治「宮川御殿―松平綱国邸跡―」『津山学』とはじめ）。津山藩の記録である『国元日記』の正徳五年（一七一五）二月八日には、「（綱国は）上屋敷寒暑共難儀につき宮川御下屋敷先年御普請あそばされ、以後御上屋敷はお返しなされ、宮川の御屋敷に御住居なされたき旨」とあり、下屋敷として利用していた宮川の屋敷に住居することになったことがわかります。いつ頃から綱国の下屋敷となったのかはつきりとはわかりませんが、宝永四年（一七〇七）三月六日に、「三州（綱国）様宮川御下屋敷へ殿様入らせられ」とあり、遅くともこのころにはすでに綱国の下屋敷として利用されはじめていました。

享保二十年（一七三五）三月に綱国が亡くなる、同年四月晦日に宮川御殿は作事方へ引き渡されました。寛保二年（一七四二）に藩主長孝が帰国すると、何度か宮川御殿に入っていますが、同三年三月十日には宮川御殿の一部を来迎寺（現在の成道寺）へ下すこ

とになりました。国元日記によると、その部分は「一、居間縁側共 但御湯敷御雪隠御畳共 一、御寝間御畳共 右両所建具共」とあります。しかし来迎寺は宝暦元年（一七五二）に火災にあい、移ってきた建物も焼失したと考えられます（『津山誌』ほか）。

延享元年（一七四四）十月十一日、宮川御殿御門が寿光寺へくだされることになり、勝手次第に引き取るようにと指示が出ました（写真①）。寿光寺は綱国の父の側室だった立長院が帰依し、綱国との関わりが深い寺でした。

現在の寿光寺の表門（写真②）は、『津山城西の町並―津山市城西町並調査報告書―』によると、簡潔な構造の薬医門で、十八世紀前期の建築と推定されています。もし、宮川御殿の門が、綱国の下屋敷として使用されはじめ、その後住居となった時期に建てられたものであれば、現在の寿光寺表門の建築年代と概ね一致します。しかし宮川御殿の門がいつ建てられたのかはつきりした記述はなく、宝暦十三年（一七六三）の勘定奉行日記には、宮川御屋敷跡に門と長屋があり、紙漉所に利用されたことが記されており（尾島治 前掲書）、これらについても考える必要があります。うです。

綱国は越後騒動以前、次期藩主として光長の養子となっていました。綱国が重要視されていたことがわかります。綱国が住んでいた御殿の一部をくだされることは、寺にとって大きな意味のあることだったのでないでしょうか。

一 寿光寺をその門速きはるくおわす信し宮川御殿の門をくだされしはるく信し宮川御殿の門をくだされしはるく信し宮川御殿の門をくだされしはるく信し

右：写真①「国元日記」
延享元年10月11日



上：写真②
寿光寺の門

お知らせ

人事異動（令和2年4月1日付け）

前館長 小島 徹（津山洋学資料館館長へ）

新館長 小郷 利幸（津山弥生の里文化財センター所長から）

令和2年度 津山郷土博物館 行事予定

■特別展示

「天華百剣と名刀写し展」

【会期】4月1日～5月24日

【会場】当館3階展示室

「津山市・出雲市・諫早市三市交流展（仮称）」

【会期】10月（予定）

【会場】当館3階展示室

■出版

津山松平藩町奉行日記27の刊行

■広報活動

博物館だより「津博」

NO.104：5月 NO.105：8月

NO.106：11月 NO.107：2月

■教育普及活動

古文書講座「美作の古文書をよむ」

9月・10月・11月・1月・2月・3月

■夏休み子供歴史講座

「勾玉をつくろう」

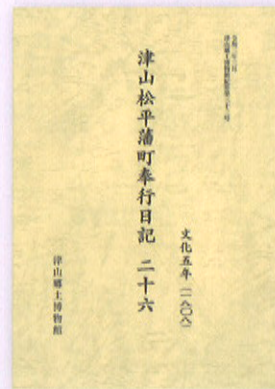
「トンボ玉を作ろう」

■文化財めぐり

5月（中止） 11月 3月

新刊のお知らせ

津山松平藩町奉行日記26



（文化5年：1808年）

販売価格：800円

好評販売中です！

※新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度の博物館の行事につきましては今後の状況により、詳細な日程を決定いたします。決定いたしましたら、当館のホームページなどでお知らせいたしますので、ご確認ください。
 なお、状況によっては、中止させていただくものもございますので、ご了承ください。

博物館だより「つはく」
No.104 令和2年5月1日津博
TSUYAMA MUSEUM

【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tv.tn.ne.jp

【印刷】有限会社 二葉印刷

入館のご案内

【開館時間】午前9：00～午後5：00

【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始（12月29日～1月3日・その他）

【入館料】一般 300円（30人以上の団体の場合240円）
高校・大学生 200円（30人以上の団体の場合160円）
65歳以上 200円（30人以上の団体の場合160円）中学生以下・障害者手帳を提示された方は、入館料が無料です
※4月1日から入館料が改定となっております。

土は、津山松平藩の楡印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。